

平成30年度 若松原中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた高い知識と豊かな心を持ち、たくましい人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」

知識基盤社会の時代といわれる21世紀を生きる人間にとって、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことは、ますます重要である。そのため、歴史と伝統及び良き校風を大切に繋げ、発展させ、人間尊重の教育を推進し、未来を切り拓く意欲や豊かな創造性の育成に努め、創意ある教育課程を編成して、生徒自らが主体的に学力を高め、奉仕と思いやりの心を育て、心身を鍛えることで、教育目標を達成させるようにする。

また、生徒が生き生きと主体的に取り組む教育活動の実践のため、学業指導の充実、学校園及び学区内の小中学校との連携や協同の充実、学校の公開や情報の発信、家庭・地域・企業との連携や協同の充実などを意図的・計画的な学校経営を行うことで、保護者・地域住民から信頼される学校づくりをする。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）学業指導の充実を図ることで、確かな学力、豊かな心、健康・体力を育む。
- （2）基本的な学習習慣や態度を身に付けさせ、分かる授業を通して確かな学力を育成する。
- （3）自己肯定感・自己有用感を育み、生命尊重と他人を思いやる心を持った生徒を育成する。
- （4）基本的な生活習慣の確立・集団規律の遵守を通して、規範意識の向上を図る。
- （5）教職員自らが課題意識を持ちながら、教育の専門家としての自負を持って研鑽に励む。
- （6）学校の公開や情報の発信（HP、各種たより等）を積極的に行うことで、家庭、地域、関係機関等との連携を強化する。
- （7）○小中一貫教育の充実、地域学校園の連携や協同を積極的に図ることで、児童生徒が発達段階に応じた一貫性のある教育を継続的に実践する。

【若松原地域（WGS）学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を「関わる教職員の思いと責任を共有し連携して、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

～自己実現（社会的自立）を図るための指導・支援の充実～

- ・「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の充実
- ・主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・心身の健康を把握し、自他への思いやりの心の育成

○学力向上のため、小中一貫教育の教科部会や分科会の充実

【学 習 指 導】

～学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり～

- ・学び合い活動を通して、コミュニケーション力の向上を推進する。
- 分かる授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。

【児童生徒指導】

～自己指導能力の育成～

- ・自ら判断し、責任を持って実行できる生徒を育成するため、自己指導能力の育成・向上を図る。
- 自ら課題に立ち向かい、思いやりと協同を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気を作り、学力向上の基礎・基盤となるよう推進する。

【健康、保健安全、体力】

～心身共に健康的な生活を目指して～

- ・健康・運動・食に関する指導を通して、体力の維持や増進・食習慣や食のマナーの体得など、健康的な生活習慣づくりを推進する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、知識・理解を深めて安全で豊かな生活を送れるようにする。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒ 生徒の肯定的回答 88%以上 →	・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 →	○学習や活動のねらいを明示し、授業の中で、できた喜びや成就感を実感できる場や機会を意図的に設け称賛する。 ・生徒一人ひとりが自尊感情を高め、学習や諸活動に生き生きと取り組めるよう、校内研修を充実させ、教職員の資質、能力の向上を図っていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 →	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくように協力を要請する。 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科化を視野に入れた道徳の時間の指導の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。		【達成状況】 【次年度の方針】

A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人ひとりに丁寧に教えてくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 88%以上 →	○個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科、英語科では習熟度別学習やＴＴなど指導形態を工夫し、学力の向上を目指す。 ○授業の始まりに授業のねらいや身に付けたい力を示したり、授業の最後には、振り返りを行ったりすることにより、生徒の学習活動をより活発にするための指導法の改善を図る。 ・生徒一人ひとりが意欲的に学習に取り組み、学力の向上が実感できるよう、教職員が互いに研鑽する機会を充実させ、授業改善をさらに進めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方はいじめは許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 →	・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・学校のいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは、適切に実施されている」 ⇒ 保護者の肯定的回答 96%以上 →	・校務運営委員会で行事などの日程調整とともに校務分掌の進捗状況等を話し合う場を設けることで、教育課程表の適切な実施に努める。 ・本校の実態や課題等を踏まえ、生徒一人一人にとって有効で自己存在感を高めることができるような教育課程の編成に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒ 保護者及び地域住民の肯定的回答 93%以上 →	・各種便りやホームページ、校門付近に設置してある掲示板等の積極的な活用により保護者、地域住民への情報発信に努める。特にホームページの更新日を定期的に設けていく。 ○小中一貫教育について理解していただくための情報提供とともに、オープンスクール等を利用して地域に対しても授業を公開するなどにより中学校教育への理解を深めてもらう。	【達成状況】 【次年度の方針】

A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒ 保護者および地域住民の肯定的回答 90%以上 →	・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 ・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒ 保護者の肯定的回答 88%以上 →	・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・日頃の清掃活動については、その方法の改善を図りながら、さらなる充実を図っていく。 ・PTAには奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。 ・地域協議会に対しては、本地域ならではの強みを生かした学校バラ園・花壇の整備等の協力を引き続き依頼していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 70%以上 →	・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 ・各小・中学校の地域協議会との連携を図り、小・中学生がともに取り組むことのできる活動を探し、生徒に積極的に参加するよう呼びかけていく。 ・交流授業を通して、小学生の中学校に対するギャップの軽減を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケートの教職員の肯定的回答 ⇒ 80%以上 →	・SCMや特別支援コーディネーターを中心にSCやMSとの連携を行い、教育相談を充実させる。 ・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。 ・PTA事務員の活用によりPTA役員との連絡調整や会計事務などPTA事務の業務を縮減させる。 ・2名の地域コーディネーターと連携を密にし、役員の連絡や運営についての仕事を分別し効率化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

教育活動の状況		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケートの教職員の肯定的回答 ⇒ 80%以上 →	・SCやMS、かがやきルーム指導員に週1回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。 ・PTA事務員の座席を事務室に確保し、時間的にも空間的にも連携が図れるようにする。 ・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。	【達成状況】 【次年度の方針】
		B1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、本（読書）が好きになった。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 →	・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。 ・読書の醍醐味を伝える活動を強化するとともに、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。	【達成状況】 【次年度の方針】
		A13 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒はあいさつをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 →	・「先行あいさつ」の拡大を図る。また、「あいさつ推進運動」を通して、リーダーの育成を図るとともにコミュニケーション力の育成も図る。 ・PTA及び地域協議会と連携した「あいさつ運動」や下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	生活	A14 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は正しい言葉づかいをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 →	○学校生活のあらゆる機会を捉えてT. P. O. に応じた正しい言葉づかいができるように指導するとともに、正しい言葉遣い強調週間を設け、生徒及び教職員の意識を高め、指導を徹底する。 ・言葉づかいを見直す週間を設け、道徳や学活、宮チャレなどとも関連させながら、生徒および職員の意識を高める機会とする。 ・学校だよりや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、家庭と協力して正しい言葉遣いを推進していく。	【達成状況】 【次年度の方針】

健康・体力	A15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 →	・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 ・体育の授業における各種競技において個人の目標を設定し、目標を持たせることで、主体的に運動に取り組むきっかけとする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 →	○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・献立表や食育だより等を活用し、保護者への啓発を行うとともに協力を依頼し、連携しながら食育の充実に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、毎日朝ごはんを食べている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 →	・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
学習等	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 →	・学習指導主任や教科・領域主任を中心に、本校の実態に合わせて「教えて考えさせる授業」を展開する。 ・探究型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業づくりを進める。 ・授業中における集団づくりを実践する。 ・学力の向上に向け、各教科部会の充実を図り、一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策を講じていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 →	○生徒一人一人に即した授業を展開し、学業指導の充実を目指す。 ・定期的に授業研究会を実施するなど、教科部会のさらなる充実を図り、お互いの教師力の向上を目指す。 ○「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」をさらに充実させるため、アクティブラーニングの考え方から学習活動を見直し、効果的なグループ活動や話し合いについて研究する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 →	・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。 ・地域の行事のポスターを貼って紹介するなどPR活動によって参加を促す。 ・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、チャイムを守って授業の準備をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 →	・時間を守ることの大切さを教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に「5分前行動」の呼びかけを行い、共通理解を図りながら、時間を守るムードの醸成を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
本校の特色 ・課題等	B4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、体育祭や文化祭で一生涯活動し役割を果たせた。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 →	・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。 ・学校行事等において生徒の自主的な活動を促し、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。 ・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人一人が主体的に活動できるような場を設定する。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。